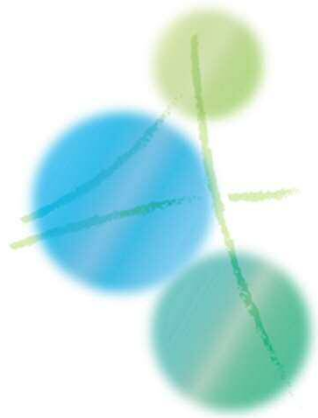




大宮駅東口周辺 公共施設再編／公共施設跡地活用 全体方針（案）説明用資料

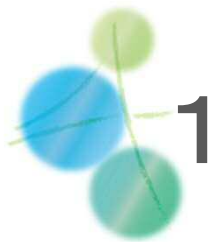
大宮駅東口周辺公共施設再編推進本部
事務局 都市局都心整備部
大宮駅東口まちづくり事務所



審議事項

「大宮駅東口周辺 公共施設再編／公共施設跡地活用
全体方針」（案）をとりまとめましたので、ご審議
いただきます。

- 1 これまでの経緯について
- 2 PI（Public Involvement）の結果について
- 3 審議事項：
「大宮駅東口周辺 公共施設再編／
公共施設跡地活用 全体方針」（案）
- 4 今後の進め方について

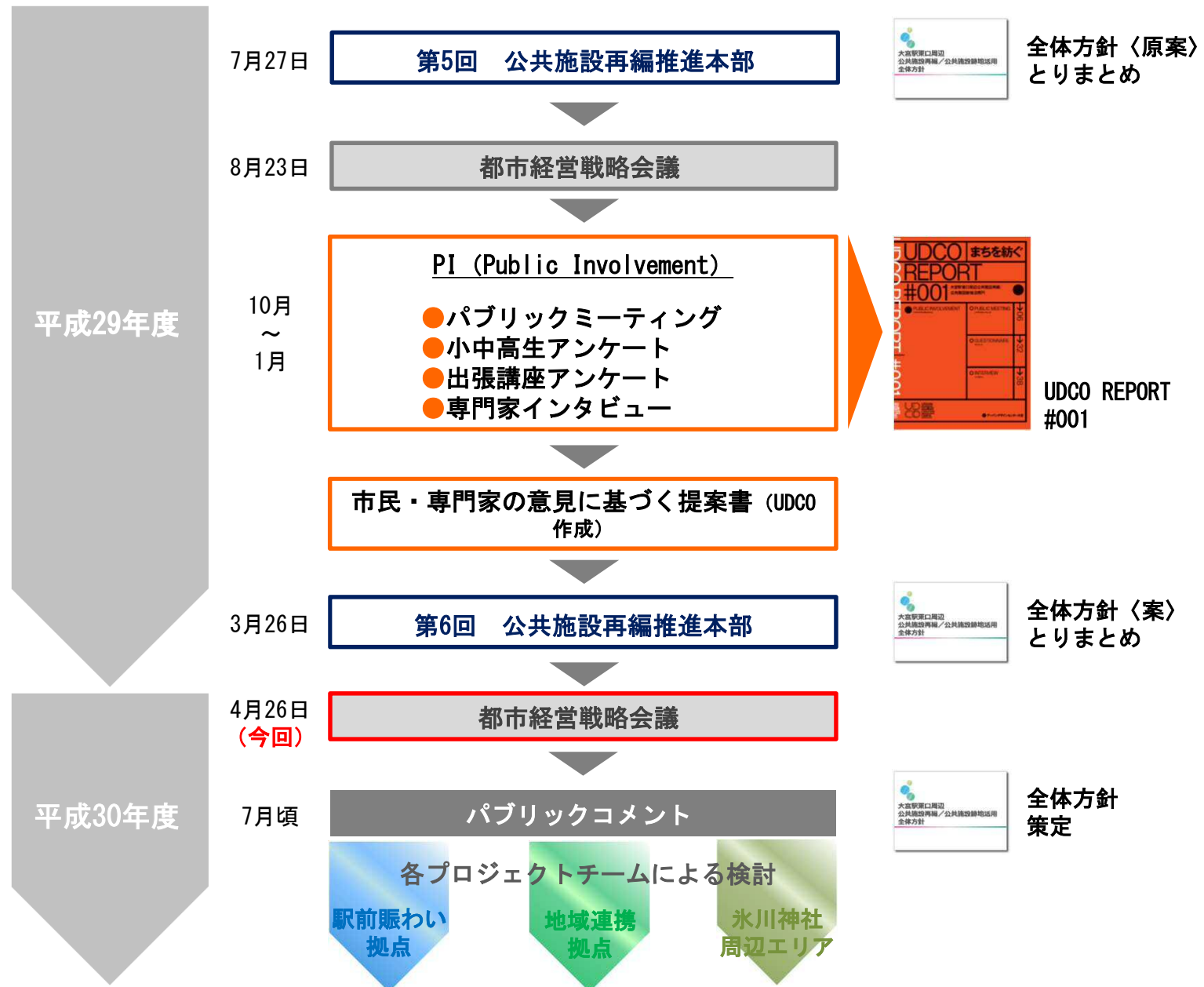


1

これまでの経緯について



1 これまでの経緯について





2

PI (Public Involvement) の結果について



2-1 PI①_パブリックミーティング

パブリックミーティング#001 地域連携拠点

日時 平成29年11月24日（金）10:00-12:15
会場 市民会館おおみや小ホール
参加者 79名（定員80名）

第一部 基調講演：工藤和美（UDCO）
第二部 パネルディスカッション
第三部 オープンセッション／アンケート



UDCO工藤センター長による基調講演

パブリックミーティングの会場の様子



パブリックミーティング#002 駅前賑わい拠点

日時 平成29年11月25日（土）10:00-12:15
会場 大宮区役所6階大会議室
参加者 80名（定員80名）

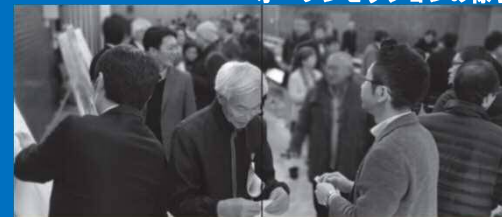
第一部 基調講演：原島克典（豊島区都市計画課）
第二部 パネルディスカッション
第三部 オープンセッション／アンケート



パネルディスカッションの様子

左から佐藤慎也（日本大学教授）
今村信哉（前々大宮小学校校長）
大熊久夫（埼玉大学特任教授）
原島克典（豊島区都市計画課）

オープンセッションの様子



パブリックミーティング#003 氷川神社周辺エリア

日時 平成29年11月27日（月）10:00-12:15
会場 大宮図書館地下視聴覚ホール
参加者 80名（定員80名）

第一部 基調講演：田中元子（グランドレベル）
第二部 パネルディスカッション
第三部 オープンセッション／アンケート



パネルディスカッションの様子

左から東角井真臣（氷川神社）、小峯政昭（氷川の杜まちづくり協議会）
田中元子（グランドレベル）、藤村龍至（UDCO副センター長）



オープンセッションの様子



2-2 PI②_小中高生アンケート

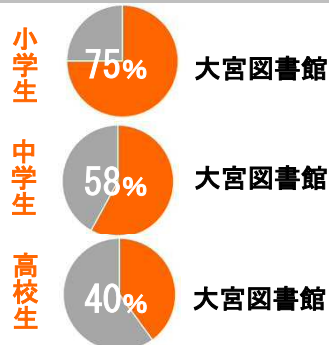
将来のまちの担い手である大宮駅東口周辺の小中高生にアンケート調査を行いました。

- 調査期間 平成29年12月 ～ 平成30年1月
 - 調査対象 小学5年生（141名：大宮小、大宮南小、大宮北小、大宮東小）
中学2年生（146名：大宮東中）
高校2年生（158名：大宮高校）
- 総回答者数 445名**

●アンケートの回答（一部抜粋）

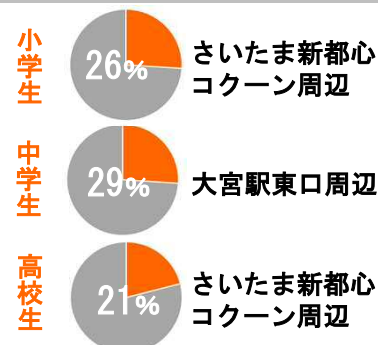
Q1

大宮でよく行く
公共施設は
どこですか？



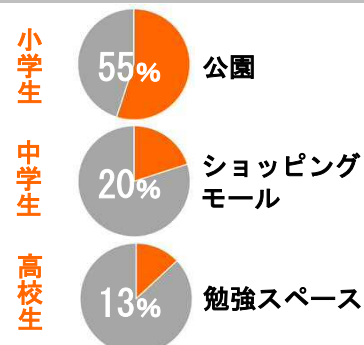
Q2

大宮でお気に入りの場
所を
教えてください。



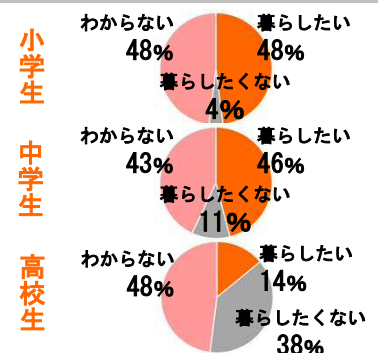
Q3

大宮にどんな場所があ
ると
うれしいですか？



Q4

大人になってからも
大宮で
暮らしたいですか？



〈まとめ〉未来のまちの担い手となる10代の小中高生の、周辺の公共施設や集客施設との係わりなどについて把握することができました。若者たちが住み続けたいと思うことのできるまちづくりの重要性と、成長に伴うニーズの変化、居場所づくりの重要性などを確認することが出来ました。



2-3 PI③_出張講座アンケート

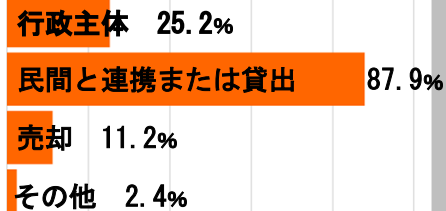
大宮駅周辺のまちづくり団体／自治会に出張し、アンケートを実施しました。

- 調査期間 平成29年10月 ～ 平成29年11月
- 調査対象 大宮駅周辺で活動するまちづくり団体（11団体）
大宮駅東口周辺自治会（23自治会） 総回答者数206名

●アンケートの回答（一部抜粋）

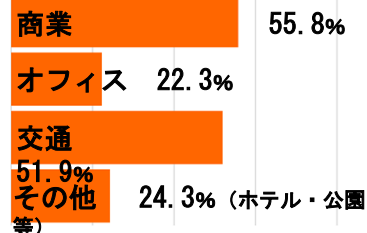
Q1

今後の公共用地の活用
のあり方とは？



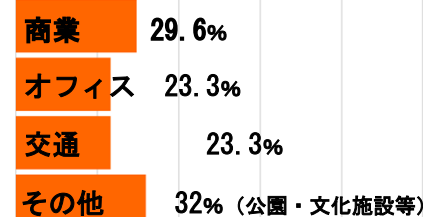
Q2

大宮区役所跡地に求め
る機能は？



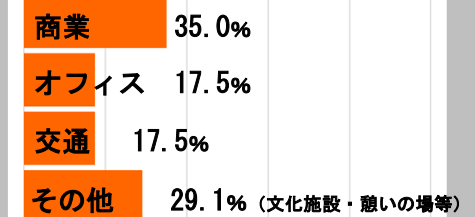
Q3

市民会館おおみや跡地
に求める機能は？



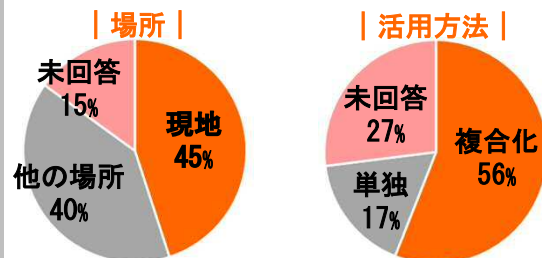
Q4

大宮図書館跡地
に求める機能は？



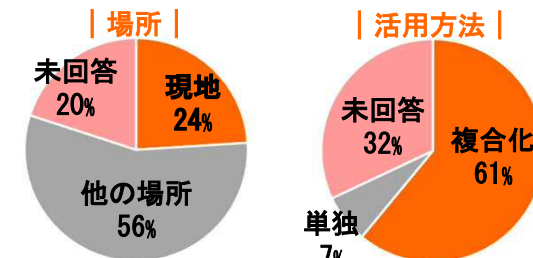
Q5

大宮小学校の今後の土地活用



Q6

市立博物館の今後の土地活用



〈まとめ〉
地元を中心とした市民の意見の
傾向が確認出来ました。
今後の土地活用については、
とても柔軟な回答結果となっ
ています。



2-4 PI④_専門家インタビュー

大宮駅周辺のまちづくりと大宮駅東口周辺公共施設再編をテーマに、各分野の専門家5人にインタビューを行いました。

それぞれの分野における観点から専門性の高いご意見をいただき、今後のまちづくりの推進に向けた沢山のヒントを得ることが出来ました。

建築
妹島 和世
建築家、SANAA



市民が
誇れる街と
建築

日本一の
教育都市



教育
細田 眞由美 さいたま市教育長

よい提案が
生まれる
仕組みと
プロセス
の作り方



官民連携
根本 祐二 東洋大学経済学部教授

軸を通した
まちづくりの
推進



行政
山出 保
前金沢市長 1990-2010
全国市長会会長 2003-2007

都市
マーケティング
戦略



マーケティング
神河 恭介
ビジネスデベロッパー、POD代表



2-5 市民・専門家参加に基づいた提案書

昨年10月～1月の間、集中的に実施したPIの結果をとりまとめた提案書が、UDCOから提出されました。(H30.2.26) 推進本部では、この提案書の内容を全体方針に反映し、全体方針(案)のとりまとめを行いました。

「大宮駅東口周辺公共施設再編/公共施設跡地活用全体方針(原案)」に対する 市民・専門家参加に基づいた提案書

UDCO(アーバンデザインセンター大宮)では、さいたま市により公表された「大宮駅東口周辺公共施設再編/公共施設跡地活用全体方針(原案)」を受けて実施したPublic Involvement: 市民・専門家参加[市民との対話、専門家へのインタビュー、多世代のアンケート等]に基づき、大宮駅東口公共施設再編を契機として大宮のまちの価値をさらに高めていくための提案を致します。



都市戦略

1 世界の中の大宮

「大宮らしさ」を位置づける都市戦略、対立軸としての役割の明確化

- これからの大宮は、まず「大宮らしさ」を打ち出し、東日本という限られた範囲ではなく、世界の中でその「大宮らしさ」をどう位置づけるか、ということを考えていく必要があります。
- 世界、日本、東日本、首都圏、さいたま市という各スケールの中で、大宮らしい都市戦略を行政が打ち出すことが求められます。
- その中で、「東日本の対立軸点」の意味・役割を明らかにし、さらに「大宮らしさ」を醸成していくべきです。

公民連携によるプロセス

2 開かれたプロセス

市民との情報共有にとどまらず、市民が主体的にプロジェクトに参加することが重要で、そのためには、行政が制約条件や意思決定の理由を明らかにし、かつ、参加者が望まない工夫を行ないながら、開かれたプロセスを進めていく仕組み作りが必要です。その際、常に最先端の知識や事例を取り入れながら、企画・検討の議論が平準化しないための配慮も求められます。それが大宮の次世代の地域づくりの担い手育成にもつながっていきます。

3 民間との対話

民間事業者の提案・参画意欲を引出す仕組み作り

- 公民連携では、早い段階から民間事業者の意見や提案、そして事業参画への意欲をいかに引き出すかが重要です。
- 民間事業者の提案の中に盛り込むべき要件を行政が明らかにし、民間の意見・提案を引き出す仕組み作りや、適切な段階での開放型・閉鎖型を組み合わせたサウンディング(民間事業者との公約による対話)等の意見聴取の実施、民間提案制度等を活用していくことが重要です。

4 プロジェクトチーム

産官学民の連携によるプロジェクトチーム構成の検討

- 各拠点のプロジェクトを進めていく上で、総合した都市機能やプログラムが想定されるため、多様な知見を取り入れつつ、行政の関与と調整を図っていく必要があります。
- 今後設置するプロジェクトチームは、さいたま市の関係各課を横断した体制をベースに、コーディネーター・専門家を柔軟に取り入れてプロジェクトを推進していく柔軟体制を組織することが望まれます。
- また、3つのプロジェクトの調整機能を強化し、相互に連携を図ること、そしてそこから周辺地域への事業・活動波及を目指すことが必要です。

プログラム

5 プログラム先行

公益性を踏まえた都市マーケティングによるプログラム作りから施設整備へ

- 公共施設再編では、施設整備のみが目的ではなく、その施設が多くの方に利用されることが重要です。
- そのためには、供給者と利用者のターゲットを見定め、まちづくりの軸となる都市マーケティングを軸としてながらプログラムの検討、各条件の整理を行い、それに見合う施設整備へと移行すべきです。
- プログラム検討の際には、地域への公共サービスと、産業・民間マーケティングとのバランスを十分に検討して明らかにする必要があります。
- また、行政としては民間提案も活用しながら十分な公共サービス提供に向けた収収を上げる仕組みをしっかりと作っていくべきです。

6 柔軟な計画づくり

変化する社会・経済情勢や、漸進的な開発に応じた柔軟な軌道修正が可能となる計画づくり

- 数年で大きく変化する社会・経済情勢や、漸進的な開発に応じた柔軟な軌道修正が可能な計画づくりを求められます。
- そのためには施設整備後の資金計画や暫定利用、段階整備計画等をきめて、いくつかのパターンを先行して検討する必要があります。

空間の質

7 魅力的な都市空間

大宮らしい空間の質を醸成する仕組みづくり

- 大宮の価値を高めていくためには、魅力的な都市空間を創出する必要があります。
- まちづくりの具体性に伴い、実際に整備される施設が、プログラムに見合った空間の質を担保するための仕組み作りを行う必要があります。空間の質を評価する指標の確立、デザインガイドラインの作成などの仕組み作りが考えられます。

地域内ネットワーク

8 3つの軸の役割

点から線へと繋げる3つの軸の役割と機能の更新

- 2010年にさいたま市より公表された「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」で示された3つの軸(東西シンボル軸、南北交流軸、歴史文化軸)の方針は、公共施設再編や他のまちづくりの方針に合わせて新たな役割が生まれてくると考えられます。
- 面的なまちづくりと並行して、3つの軸の新たな役割や機能を更新していく必要があります。

9 まちづくりプラットフォーム

(媒介) 大宮駅を中心とした東西まちづくりのプラットフォームづくり

- 大宮駅周辺で進められている様々なまちづくり(公共施設再編による建築まちづくり、大宮駅グランドセントラルステーション化構想、大宮駅西口周辺まちづくりなど)について、それらを相互に関連付けながらエリア全体の価値向上を目指していくことが重要です。
- そのためには、それらを関連付けるプラットフォームとなる仕組みづくりを構築して進めていくことが必要です。

10 防災力の向上

広域・局域による総合的な防災力向上

- 東京都心のバックアップ機能を兼ね備えた都市として、大宮の防災力向上が求められます。
- そのためには、強靭な建物を建設するだけでなく、一定規模の広域・局域を位置づけていきながら、大宮全体の都市再生による総合的な防災力の向上が必要となります。



上図を踏まえ、3つの地区、駅前賑わい拠点、地域内ネットワーク、水川神社周辺エリアについて今後検討を進めていくにあたり大宮にすべき考え方を示します。

駅前賑わい拠点

- コミュニティの核として多世代をつなぐ役割。
- 公民連携によるまちに開かれた文化・教育拠点の形成。
- プロジェクトの区域設定、大宮小学校の整備方針を早急打ち出し、東西シンボル軸、歴史文化軸、水川線道西通線との一体性やつながりの形成。

地域連携拠点

- 山手公園・新区庁舎と一体的な利活用、および、連動した広域の組み合わせによる防災機能向上。
- 大宮駅とさいたま新都心駅との人の流れを促進し、産官学民の連携を促す。
- 歴史文化軸、水川線道西通線との一体性やつながりの形成。

水川神社周辺エリア

- プログラムと連動した、神聖な場所としての価値とそこにふさわしいにぎわい、住環境の共存が図られた、静かなる賑わいの風景の形成。
- 水川線道周辺のデザイン・機能・利活用のマネジメント。
- 大宮駅グランドセントラルステーション化構想などの周辺まちづくりや賑わい交流軸とのつながり。



提案書における5つの要素と10の提案3つのエリアの考え方

都市戦略

1 世界の中の大宮

公民連携によるプロセス

- 2 開かれたプロセス
- 3 民間との対話
- 4 プロジェクトチーム

プログラム

- 5 プログラム先行
- 6 柔軟な計画づくり

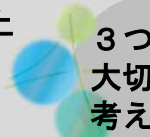
空間の質

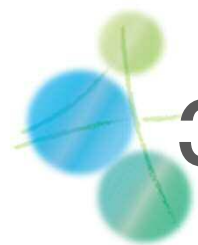
7 魅力的な都市空間

地域内ネットワーク

- 8 3つの軸の役割
- 9 まちづくりのプラットフォーム
- 10 防災力の向上

3つのエリアの大切にすべき考え方





3 審議事項：

「大宮駅東口周辺 公共施設再編／
公共施設跡地活用 全体方針」 （案）



3－1 全体方針（案）の構成



大宮駅東口周辺 公共施設再編／跡地活用 全体方針（案）

序. はじめに



1. 大宮駅東口周辺のまちの特徴



2. 大宮駅東口周辺における公共施設等の現状



3. 公共施設再編による「連鎖型まちづくり」



4. 公共施設再編／公共施設跡地活用

の全体方針

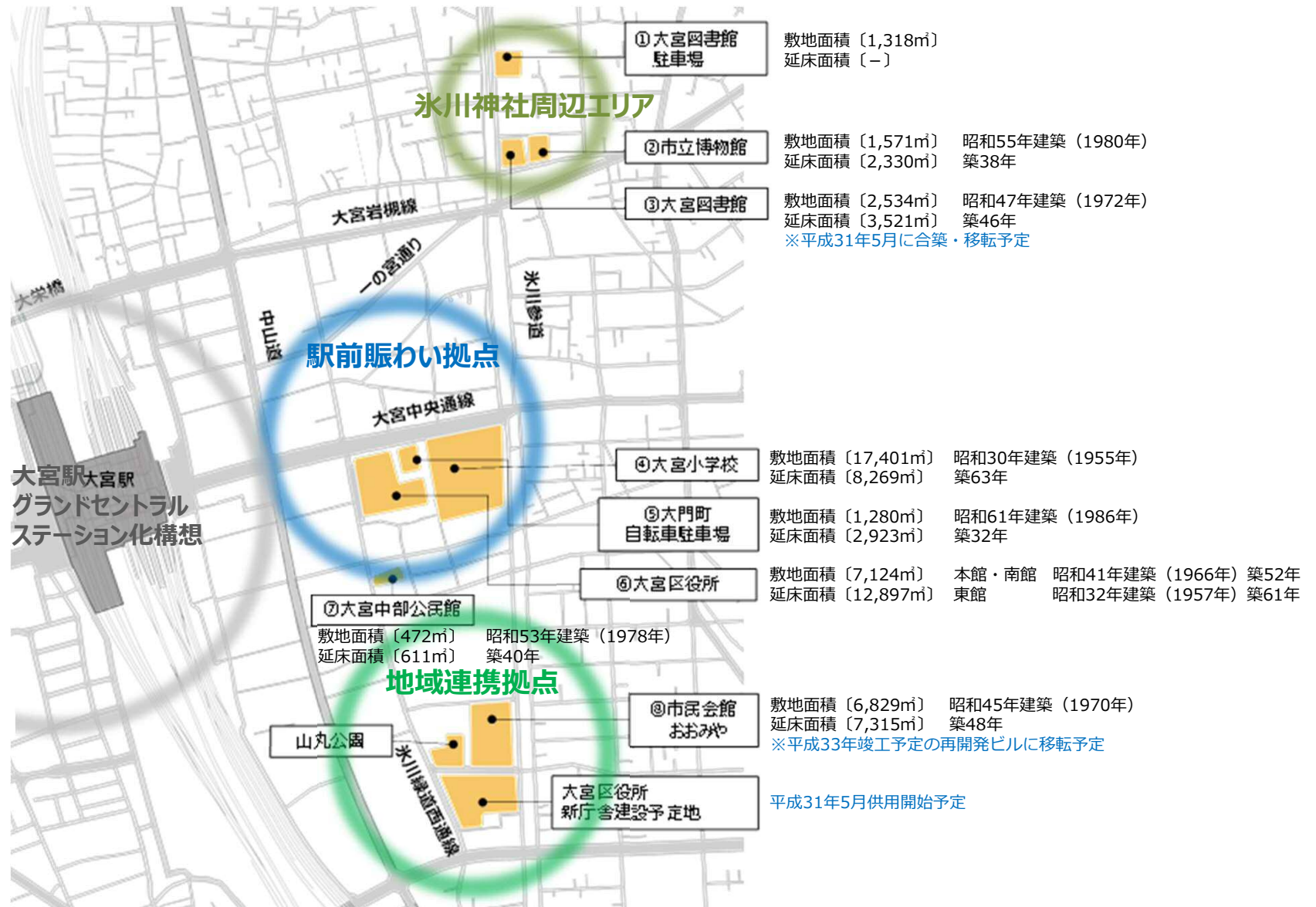
- (1) 連鎖型まちづくりの方針
- (2) 地区別のアクションプラン
- (3) 連鎖型まちづくりの効果



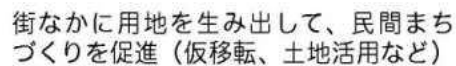
5. 地区別整備の推進に向けた進め方



3-2 大宮駅東口周辺の公共施設等の現状



大宮駅東口周辺の公共施設の立地状況

[illegible]



3－4 公共施設再編／跡地活用の全体方針

※今回の修正で変更となった箇所を赤字で示しています。

①東日本連携

東日本を支える拠点都市としてまちづくりを推進！

- 東日本の各圏域との連携強化
- さいたま新都心との一体的都心形成

②個性の継承

個性を失わず大宮の魅力を更に強化！

- 個性の最大活用
- 多様性と寛容性ある地域資源を活かしたまちづくり

③公民連携

積極的に民間の力を導入！

- 積極的な民間活力の導入
- 公民連携や民間主体も積極的に推進

④市民との共有→市民参画（変更）

開かれたプロセスによる主体的な市民参画の推進！

- 公共施設は市民の財産
- 検討の各段階における主体的な市民参画の推進

⑤プログラム先行（新規追加）

プログラム作りが先導するまちづくりの推進！

- 都市マーケティングに基づくプログラムづくり
- 稼げる都市に向けた仕組みづくりの推進

⑥魅力的な都市空間の創造（新規追加）

大宮らしい空間の質の担保！

- 魅力的な都市空間づくりに向けた空間の質を担保する仕組みづくりの推進

各地区が担う役割

求められる機能



氷川神社周辺エリア

氷川神社周辺という立地に相応しい
魅力的な土地活用により
氷川の歴史・文化を継承・発信し
地域資源と調和した空間を演出するエリア

一の宮通り賑わい交流軸

氷川の杜と駅前周辺地区を結ぶ
歴史・文化と観光が交わる賑わいの軸

駅前賑わい拠点

東日本の対流拠点都市の実現に向けて
大宮駅GCS化構想と連携するとともに
大規模な土地活用によって
東日本の拠点性を高める機能の導入する拠点

中央通線東西シンボル都市軸

駅とまちを継ぐ都市活動の中心となるシンボル軸

地域連携拠点

大宮駅とさいたま新都心駅の中間に位置する
公共施設の集約による都市機能の集積や
地域間の連携や回遊性を向上する
連携・ネットワークの拠点

氷川参道歴史文化軸

緑が連続し人々が憩う歴史と文化の軸

- 歴史・文化の継承と点在する魅力的な地域資源を回遊する機能向上
 - 駅周辺の賑わいを氷川の杜の歴史・文化の薫りを取り込み、まちの奥行を深める
 - 多様な個性が交じり合い、都市の寛容性を高める高質な空間の形成
 - 神社・公園・野球・サッカーなど、文化とレジャー・スポーツが混じりあう賑わいの創出
- 賑わいの創出に向けた商業・業務機能の拡大等、都市機能の面的な更新
- 東日本との連携を促進する広域的な交流・連携機能
- 大規模かつ複合的な土地活用による重層的で強靱な都市形成
- 交通結節機能を支える交通機能の充実
- 駅前まちづくりとの連携による大宮駅GCS整備の推進
- 地域住民に活用される歴史・文化・学習・交流機能の集積
- 憩いやゆとりの空間ともなる災害時支援機能の強化
- 大宮駅周辺地域とさいたま新都心駅周辺地域の連携を強めるネットワーク機能の強化
- 静かなる賑わいの演出によって氷川の杜の歴史と文化を発信する2Km



3-6 地区別のアクションプラン

※今回の修正で変更となった箇所を赤字で示しています。

PHASE1：短期（概ね～2年）

中期（概ね3年～5年）

PHASE2：長期（概ね5～10年）

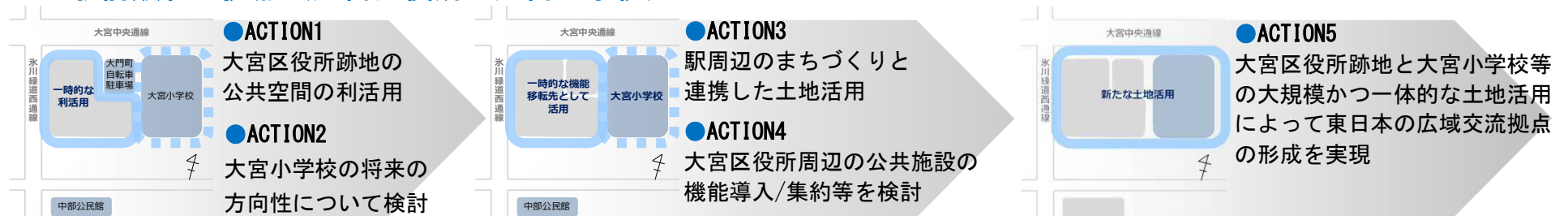
●大宮駅グランドセントラルステーション化構想

大宮駅
グランドセントラルステーション化構想

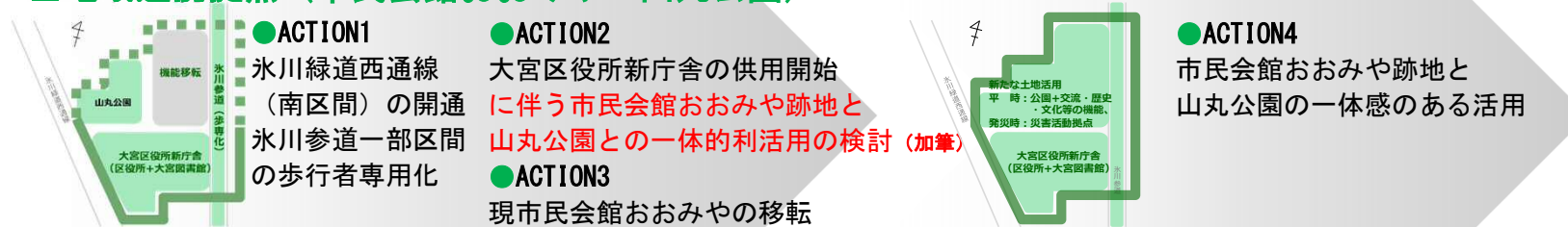
個別の
整備計画
策定

大宮駅
グランドセントラルステーション整備

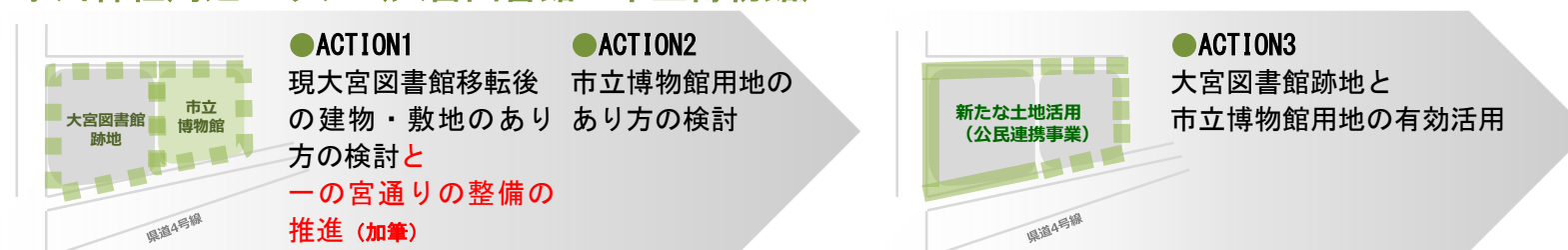
■駅前賑わい拠点（大宮区役所・大宮小学校）



■地域連携拠点（市民会館おおみや・山丸公園）



■氷川神社周辺エリア（大宮図書館・市立博物館）



※変化する社会、段階的開発に応じた柔軟な軌道修正が可能となる計画とし、随時アクションプランを見直していきます。（加筆）



3－7 連鎖型まちづくりによる効果

※今回の修正で変更となった箇所を赤字で示しています。

民間活力の導入による効率的な都市再生

- 民間事業者の意見や提案、参画意欲を引き出すこと（加筆）、また、都市再生緊急整備地域の制度を活かしたインセンティブによる民間活力導入し、土地の更なる高度利用や効率的に都市機能を導入。
- スピード感のあるまちづくりを展開し、東日本の玄関口としてふさわしい拠点性の向上に貢献。

地域間の連携による一体的な都心形成

- まちづくりによる都市機能の導入・配置により、さいたま新都心駅周辺地域の都市機能と相互に補完し一体的な都心としての連続性を生み出すことが可能。
- 街路整備等の基盤整備によって物理的な面での連続性の強化も図る。

面的な都市再生による総合的な防災力の向上

- 建築物の建替による防災性の向上と周辺への連鎖的な波及により強靱で防災性の高い都市として更新。
- 建物更新に合わせて一定規模の広場・緑を配置することで、（加筆）人々の憩いの場となるとともに、災害時の対応にも貢献し、安心・安全のまちづくりに寄与。

東日本連携による対流拠点機能の強化

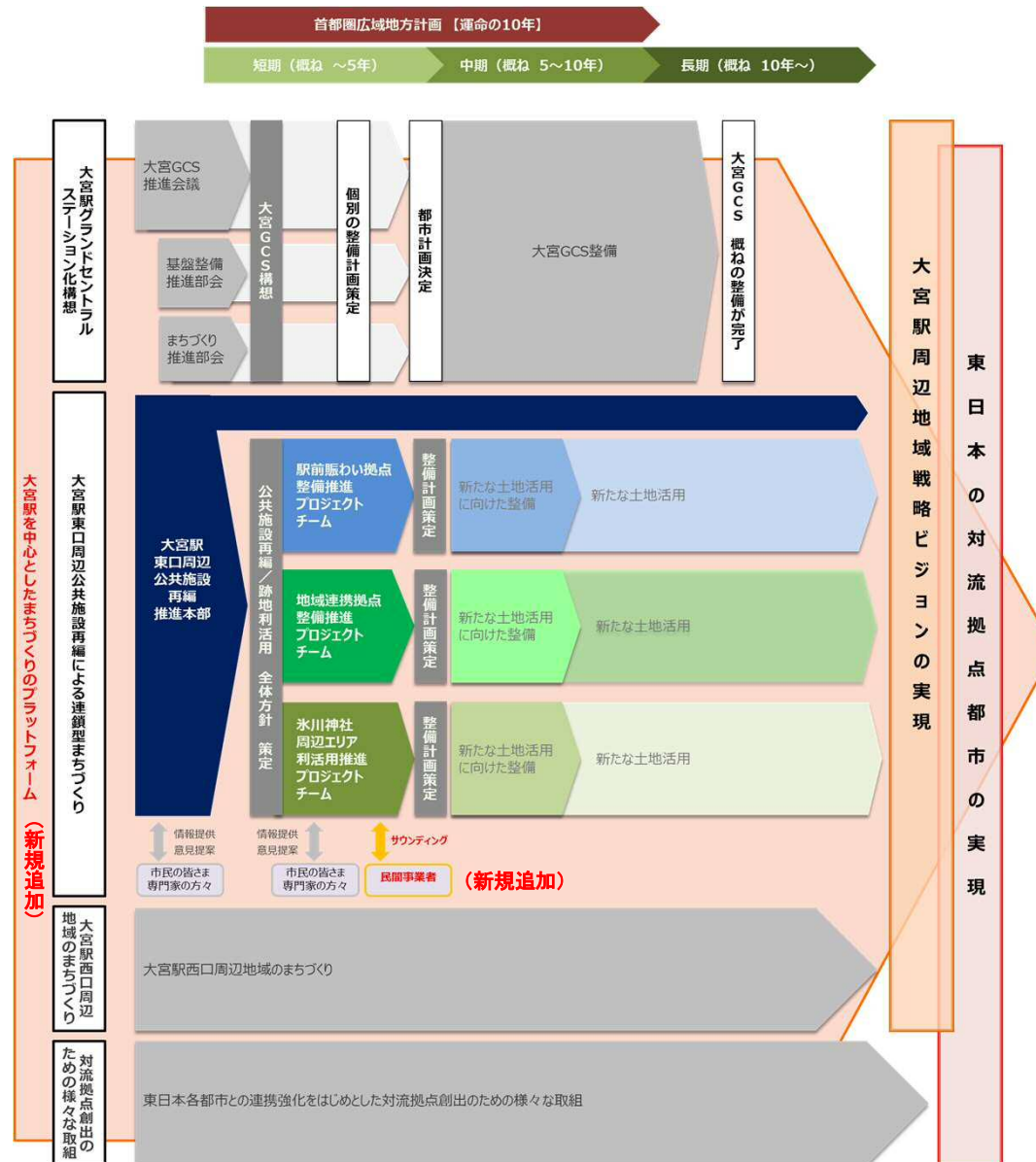
- 大宮駅GCS化構想など、駅前まちづくりで導入する都市機能を補完する受皿の創出が可能。
- 例えばMICEなどの都市活動を展開し東日本との連携強化を図り、対流拠点としての役割を果たすことが期待出来る。

市民参画を通じた将来の担い手育成（新規追加）

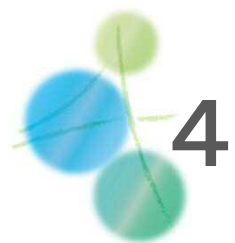
- オープンなプロセスでまちづくりを推進することで、市民が主体的にまちづくりに参画することで、次世代の地域づくりの担い手の育成につながり、周辺の自律的なまちづくりに展開される。



3-8 地区別整備の推進に向けた進め方



地区別整備計画の策定に向けた進め方

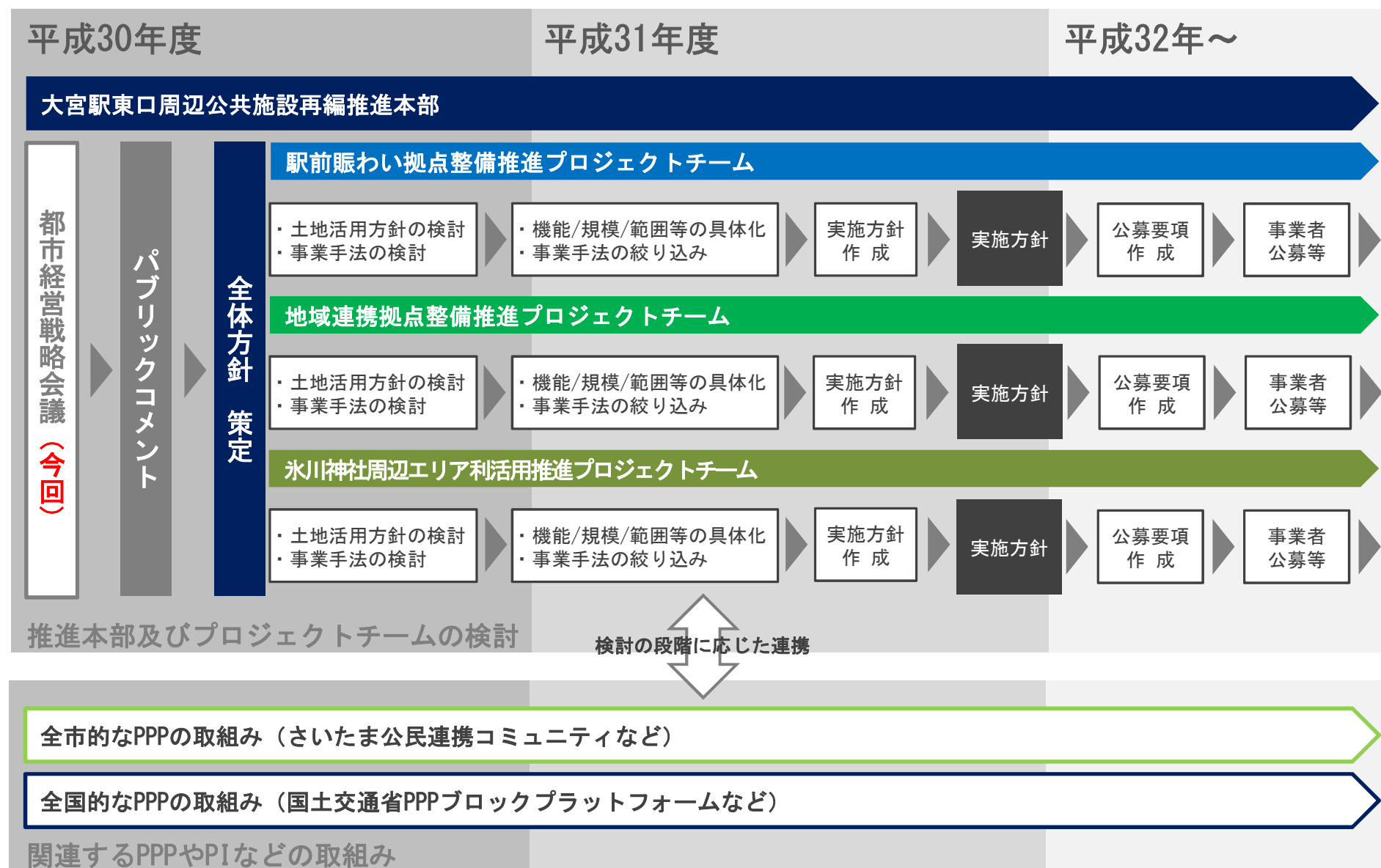


4

今後の進め方について



4 今後の進め方について



※プロジェクトチームによる検討スケジュールは変更となることがあります。